

# ナウマン通信



2020年  
6月29日発行  
第7号

大阪市立我孫子南中学校

## いじめについて考える日

今日の全校集会は「いじめについて考える日」として講話をしました。どんな話をすればみんなに伝わるのか悩みに悩んだ末、以下のような話をしました。もう一度紹介しますので、考えてほしいと思います。



### ～全校集会・・・校長講話より～

『今日はいじめについて考える日です。みんなにどんな話をすればいいか、悩みました。みんなは「いじめはだめだ。」「いじめる側が100%悪い」と今までもいろんな場面でそんな話を聞き、いじめと向き合ってきたかと思います。でも現実にはいじめはなくなっていない。ないことを祈っていますが、もしかしたら今この中にもいじめられている人、いじめている人がいるかもしれません。だから今日は校長先生の自分の話をします。本当は誰にも知られたくない恥ずかしい話、隠しておきたい話ですがあえて話したいと思います。今こうしてみんなの前に立って偉そうに「いじめはだめだ」と話していますが実は小学校5年生の時に校長先生はいじめをしていました。同じ学年の女の子です。自分に対して何か嫌なことを言ったり、したわけではなく、ただ何となくみんなが嫌がっているからという理由で近づいたら逃げたり、体に触れるとそれを誰かにつけたりしていました。さらにひどいときには下校中のその子を見つけるとしろうからランドセルを蹴ったり、ランドセルを引っ張ってこかしたり、泣いているのを見て笑ったりとひどいことをたくさんしていました。そんな時テレビで「いじめを苦に自殺」というニュースが流れました。その時、自分のしたことを反省するよりも正直に言う「やばい」「もしあの子も自殺したら自分の責任が、」と考える自分がいました。情けないけれどその時は本当にそう思っていました。ただ、それと同時にもう絶対いじめはやめようと決意もしました。それからはケンカをすることはあっても一方的に一人の人をいじめる行為は一切していません。

でも「いじめ」という言葉を聞かたびに40数年前の自分が女の子をいじめていたシーンが鮮明によみがえるのです。さらにその時は見えるはずもなかったいじめをしているときの自分の醜い顔が見えるのです。あれ以来、一切いじめはしていないと胸を張って言えるのに忘れることができずに今も苦しんでいるのが現実です。みんなには同じ思いをしてほしくない。いじめる側が100%悪い。それは絶対に変わりません。そして、いじめている人も苦しみを背負うことになることを忘れないでほしいと思います。自分自身の恥ずかしい話をしましたが、みんなが安心して過ごせる学校にするために《いじめゼロ(0)》を一緒に目指していきましょう！』